

3月2日に伊都キャンパスにてヨット部×アメフト部の主将・副将对談を行いました。先日行われた「カタリバ」に引き続き、今回は部を代表して主将と副将、マネージャー（スタッフ）を交えて意見交換とアツい議論がありました。

### 《対談テーマ》

- ① 今年の目標、主将副将の目標
- ② スローガン
- ③ ヨット×アメフト交流会の感想
- ④ スタッフやマネージャーについて（どんな存在か？どうしてもraithたいか？）
- ⑤ 交流会を通してお互いの部活で“アツい”と感じた点
- ⑥ 入学生に向けて一言



### ◎今年のチームとしての目標、主将・副将としての目標を教えてください。

松本さん：九州制覇、九州リーグ優勝です。そのためには全員

が当事者意識を持ったチームであることが必要だと思っています。与えられた練習をこなすだけではなく、優勝するために必要なことを自分で考えられるようなチームを目指しています。八木さん：副将かつオフェンスリーダーとして、爆発力のあるオフェンスを作り上げたいです。竹下さん：去年の反省を踏まえて、外からの指示を待つだけではなく中にいる自分たちで考えてプレーできるディフェンスにしたいと思っています。そのために今まで以上にアメフトの勉強を

## 対 談

### ヨット部×アメフト部 主将・副将

したり下級生にもアメフトの仕組みを教えたりということを重点的にやっています。

長尾：部活としては全日本インカレ団体戦で優勝することです。そのために、個人的にはその全日インカレの個人成績でシングル（一桁代の順位）をとることが目標です。主将としては日本一の主将になること、具体的には「日本一」という目標を口で言い続けることで部員に常に日本一を意識させることですね。雰囲気

気も大事だから、声を出すなど基本的なことを率先してやっていきたいです。

内藤：まず個人的には、全日本インカレでよい成績を残して部の日本一に貢献することです。副将としては、主将が盲目的になつて見えていない部分を補ったり、部全体で悪い点はしっかりと指摘したりすることです。また、セーラーとして人間として、当たり前のことは当たり前にする。ヨット部としてそういう集団にしたいです。

### ◎それぞれの部活の今年のスローガンを教えてください。

松本さん：アメフトの今年のスローガンは「Conquest」です。一つは九州を“制覇”するという意味です。また、コンは共に、クエントは探求を指す言葉なので、目標達成のためにできることを共に探求するという意味もあります。

長尾：スローガンは「努力に勝る才能はない」です。僕たちの代はヨット経験者が一人しかおらず、経験者が多かった去年と比べて素人ばかりの集団になりました。このことは全国の私大と戦うには厳しい部分もあるのですが、泥臭く、努力を重ねるしかないと思っています。

### ◎アメフト部×ヨット部の交流会の前後での印象を教えてください。

八木さん：正直最初は新歓の時にライバルとなるのでいい印象はなかったです（笑）。新入生をとられちゃうし、ヨット部に知り

合いかもいかなかったんでよくわかつてなかったです。でも実際に話してみると熱い人ばかりでみんな真剣にヨットに取り組んでいて、同じ部活生としてかなり刺激をもらえました。

竹下さん：僕もアメフト部以外の体育会と話す機会は初めてだったんですけど、ヨット部の熱い雰囲気はよく伝わってきました、自分たちももっと頑張ろうと思いました。

長尾：アメフト部とは筋トレ室で少し会うくらいだったけど、筋トレ室で見る頑張ってる姿以上に熱い思いを聞くことができ、自分たち以外にも真剣にやってる部活があるんだなとも思いました。新歓ではライバルになるけど、体育会系として囲い込めるような一緒にイベントとかもできたらと思います。

内藤：クラスのアメフトの友達とも部活について話すこともあまりなかったけど、考えていることが近いと思いました。勝ちに對する意識とか、どういう組織を作っていけばいいとか。部活のスタッフの制度もアメフト部は洗練しているからヨット部も学びたいことが多いし、お互いに意見交換できればより良いものを九大内で作っていけるのかな。

西村さん(アメフト部スタッフ)：主将のスローガンの話聞いてたらうちも素人がほとんどだから、似てるなと思ってた。

八木さん：俺らの場合は九州リーグ内だから経験者はいないけど、ヨット部は経験者がいる周りの強いチームにそれでも勝つていくのだから

西村さん：毎年経験者つてどのくらいいるの？

長尾：毎年1, 2人くらい。僕らの4つ上から経験者が多くなっています。でも去年経験者が多く抜けて、僕たちの代は新しいステージに立ったと思ってて。経験者が少なくても勝ち続けられる集団、経験者がいたときよりも強くなりたいと思ってます。そこが難しいんだけど。

内藤：今は4年生が多いんですけど、ヨットつて経験者が少ない分上級生ほど上手いってことが多くて、実力が拮抗してる中でバチバチ競い合ってる感じですよ。

松本さん：アメフトも人数も多く出れるし全員素人で4年がうまいってなってるんだけど、下級の競争心が生まれづらい感じ。何なら4年ででられればいいって思ってる人もいますし。僕も1年目は出たいと思わなかったです。試合にはもっと体作つてから出たいって思っていました。

内藤：下級生とのギャップかあ

長尾：下級生は勝ち方とかいうかうまくなるのになにやっていいかわからない人も多いよね。僕が今やっているのは、例えば次の部内戦どこの船に勝ちたいかと下級生ペアと話して、そこに勝つために自分たちがなりたいものはなにか、そこを伸ばすには何をやればよかったかという具体的な道筋を彼ら自身から引き出すようにしてる。与えられた練習だけじゃなく、自分たちで考えないといけないから。

◎スタッフやマネージャーの存在をどう感じていますか？

松本さん：3年生まではマネージャーのポジションや存在をそれほど意識していなかったけど4年生になり運営やチーム作りに携わるようになってマネージャーの大変さを知ることになりました。

八木さん：チームを運営していく中で目に見えないところで動いている存在。スタッフがいないとチームは成り立たないので、縁の下の力持ちですね。誰からも褒められることはないかもしれないけど支える存在だと思っています。

竹下さん：3年生まではサポートをしてくれる存在だったけど、今、スタッフはサポートだけでなく勝つための戦力になってる。

長尾：今はマネージャー制度を変えている段階で、部活の運営面に関してはマネージャーに任せます。選手が競技にしっかりと集中できる環境をつくり、





マネージャーはさらにやりがいを持てるような制度にしたいです。内藤：4年生になってマネージャーも戦っている部分があるのだと知りました。現状を維持するだけでなくもっとヨット部を良くしていこう、サポートを良くしていこうと考えてます。結果だけでなく組織としても日本一になれるように。日々のサポートに感謝するだけでなく、選手と一緒に戦い目標を目指している存在。

松本さん：選手とマネージャーとの間に熱意の差があるよね。これはどうしていけばいいのかな…？選手はスタッフに感謝しているが、スタッフは選手に感謝されるために活動するだけではだめで、一人一人が目標達成に向けて活動しているという自覚が大事だよ。

平井(ヨット部スタッフ)：マネージャーの仕事が直接選手に結びつかないことも多いけど、工夫次第でいくらかでも近づけると思う。自分の仕事がチームの目標達成にどうつながっているのかを考えないとね。

松本さん：選手のサポートをすることによって間接的に勝ちに関わるのでマネージャーの熱意を高めるのは難しい…。

西村さん：(アメフト部スタッフ)：今までは自分の仕事をやるだけ、試合も選手に勝ってほしいというような姿勢だったんですけど、今年はスタッフから勝ちを目指していきたいです。ミスすることを恐れずにどんどん新しいことにチャレンジしていきたい。

## ◎新入生に向けて一言

### アメフト部

アメフト部の魅力はみんな初心者からの始めること、スタートラインは一緒ということです。帰宅部だった人も、運動部だった人もそれぞれの良さを生かして取り組めます。どんなスポーツより激しいというのも魅力の1つ。あと、体を鍛えるから大きくなる！(笑)

今年からはスタッフ体制が一新されたので、選手・スタッフ共にさらにやりがいを感じられるようになってきています。



### ヨット部

第一にヨット部は“日本一”を目指しています。素人からでも仲間と切磋琢磨しながら本気で日本一を目指して活動していて、そして本気で取り組む仲間たちが集まっています。新しいことを始めたい人、選手ではなくてもチームマネジメントに興味がある人にはぜひヨット部入ってもらいたいです。

